

中学校生活を  
スムーズに始めるための  
プログラム

平成26年2月  
岡山県総合教育センター

# はじめに

このブックレットは、生徒指導部で取り組んできた共同研究「不登校の未然防止に関する調査研究—中学校入学後の予期不安\*1, リアリティショック\*2に焦点を当てて—」から得られた知見を基に作成しました。研究を通して明らかになった、中学校進学前の予期不安、中学校入学後のリアリティショックを解消する取り組みを具体化するため、小・中学校のスムーズな接続を進める短期間プログラムとしてまとめました。このブックレットに掲載している内容は、小・中学校間の接続時における不登校未然防止のための取り組みの一部であり、主に対人関係力を強化するプログラムとなっています。

また、このプログラムの実施に合わせて、小学校では低学年から長期的な視点で既習の学習内容の定着を図り、学習に対する不安を軽減する意図的、継続的な取り組みを行う必要があります。

さらに、中学校入学後の授業や学習に関するガイダンスも丁寧に行うことが大切です。このブックレットの利用に当たっては、小・中学校間の接続に関する連携の取り組みの一つとして、他の活動と関連付けながら行うことが大切です。朝や帰りの会、学校行事等の様々な機会グループ活動等を効果的に活用し実践していただければと思います。

まずは教職員の皆さんがこのプログラムを体験することで、ねらいへの効果や難しさを感じ取ったり、学校の実態に合った工夫を行ったりしながら、見通しをもって取り組むことが必要です。

このブックレットが、児童生徒の予期不安、リアリティショックの軽減につながり、中学校生活へスムーズに適應できるようにする取り組みの一助となれば幸いです。

\*1 小学校第6学年児童が中学校進学前に抱く不安

\*2 中学校第1学年生徒が中学校入学後に感じる驚きや戸惑い

## INDEX

### プログラムの活用にあたって

不登校を未然に防ぐための支援のポイント	2
先輩からのメッセージ	2
中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムの構成	4

中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムの有効性	6
不登校出現率・欠席日数	6
アンケート調査結果	7
活動した生徒の声	9
実践した教師の声	10

### 中学校生活をスムーズに始めるためのプログラム

小学校第6学年での活動	13
小学校でのプログラム実施に向けて—ねらいとポイント—	14
実践①の概要	15
実践②の概要	17
実践③の概要	19

中学校第1学年での活動	23
中学校でのプログラム実施に向けて—ねらいとポイント—	24
実践④の概要	25
実践⑤の概要	27
実践⑥の概要	30

不登校を未然に防ぐための支援の具体例	32
小・中連携	32
中学校生活についてのガイダンス	33
保護者が子どもを支えるための取り組み	34

### ワークシート集

参考・引用文献	50
---------	----

# プログラムの活用にあたって

- 「不登校を未然に防ぐためのポイント 先輩からのメッセージ」(P.2, 3)には、小・中学校間の接続時に児童生徒にとって課題になることを、直接児童生徒から聞き取った結果を掲載しています。これを基にプログラムの内容を作成しました。
- 「不登校を未然に防ぐための支援のポイント 中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムの構成」(P.4, 5)には、全体を通しての実施時期や内容についてまとめています。
- 「中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムの有効性」(P.6~10)には、協力校への調査、児童生徒へのアンケート結果、研究委員会での協議内容などをまとめています。

## 不登校を未然に防ぐための支援のポイント

## 中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムの有効性

\* この「中学校生活をスムーズに始めるためのプログラム」(カラー版)は岡山県総合教育センターのWebページからダウンロードすることができます。

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h25/13-03.pdf>

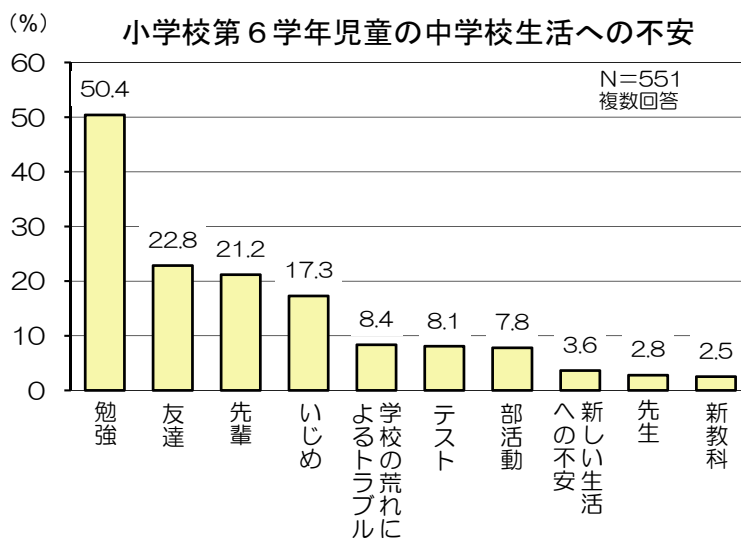
予期不安についてのアンケート結果から（小学校第6学年対象）

## 1 最も大きい中学校生活への不安は、「勉強」

※ 平成24年3月のアンケートに御協力をいただいた10小学校のデータをまとめたものです。

平成25年3月に実施した「予期不安に関する調査」から、中学校進学を控えた小学校第6学年の児童がもっている中学校生活への不安を調査しました。様々な不安がある中で、特に勉強に対する不安が大きいことが分かりました。このことから、予期不安を軽減するためには、中学校生活への具体的なイメージがもてるよう、中学校との連携を図ることが大切です。特に授業の受け方や家庭学習の進め方についても、丁寧に伝えていく必要があります。

例えば、入学説明会の充実を図り、実態に合わせた学校独自の工夫を行うことが効果的です。その点を踏まえて、協力校で行っている小・中連携の実践をまとめたものを紹介します（P.32）。



リアリティショックについてのアンケート結果から（中学校第1学年対象）

## 2 入学後のリアリティショックも、「学習面」

※ 2~4は平成24年5月、9月のアンケートに御協力をいただいた4中学校のデータをまとめたものです。

中学校へ入学直後は、「テスト・成績」「授業」に関する驚きや戸惑いの経験が多く、進学前の予期不安と同様に、入学後のリアリティショックも学習面に起因することが多いことが分かりました。このことから、生徒にも保護者にも小学校と中学校との違いを具体的に知らせ、見通しをもって中学校生活を送ることができるようにする必要があります。

また、小学校第6学年での予期不安には挙がらなかった「多忙・疲れ」が中学校入学後には、リアリティショックとして6位に挙がっています。慣れない中学校生活の中で、予期していなかった忙しさや戸惑いを感じ、疲れていることがうかがえます。

中学校生活への驚きや戸惑い（上位5項目）

例えば、学習面への驚きや戸惑いを解消するために、「中学校生活ガイドブック」などに、学習に関する項目を盛り込む必要があります（P.33）。

- 1位 テスト・成績 「テストが一度にたくさんあること」「成績がはっきり示されること」
- 2位 授業 「授業が難しいこと」「一度に習う量が多いこと」
- 3位 先輩 「上下関係が厳しいこと」
- 4位 友達 「友達とよい関係でいること」
- 5位 規則 「決まりやルールが厳しいこと」
- (6位 多忙・疲れ 「勉強や部活動が忙しく、ゆっくり休めないこと」)

# めの支援のポイント メッセージ

## 3 驚きや戸惑いの解消で難しいのは、「いじめ」

中学校入学直後に感じた驚きや戸惑いの中で解消が困難だった項目は、「いじめ」であることが分かりました。この結果から、「いじめ」に対する生徒の不安の高さがうかがえます。

中学校生活への驚きや戸惑いの中で、  
解消が難しかったもの（上位5項目）

いじめを未然に防ぐために、プログラムの中にいじめの問題を扱う「学級の良好な人間関係づくりー安心できる学級を目指してー」を盛り込みました（P.27）。

- |    |        |                         |
|----|--------|-------------------------|
| 1位 | いじめ    | 「いじめのようなことが起こること」       |
| 2位 | テスト・成績 | 「テスト範囲が広く、難しいこと」        |
| 3位 | 多忙・疲れ  | 「勉強や部活動が忙しく、ゆっくり休めないこと」 |
| 4位 | 先輩     | 「上下関係が厳しいこと」            |
| 5位 | 部活動    | 「部活動を続けることに自信がもてないこと」   |

## 4 一番の相談相手は、「家族」

中学校生活への驚きや戸惑いの解消がうまくいった生徒の多くは自然に解消でき、慣れることができています。また、解消がうまくいかなかった生徒も、自分なりに工夫をしていることが分かります。

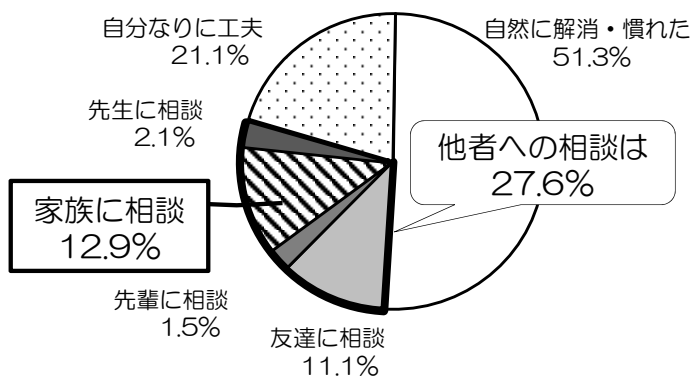
「うまくいった」「うまくいかなかった」と回答した生徒のいずれも、他者へ相談し解消の工夫をする中では、家族に相談する割合が高く、家族の支えを必要としていることが分かりました。

協力校で実践している、保護者が子どもを支えるための取り組みについて掲載しています（P.34）。

中学校生活への驚きや戸惑いの解消方法（解消結果別）

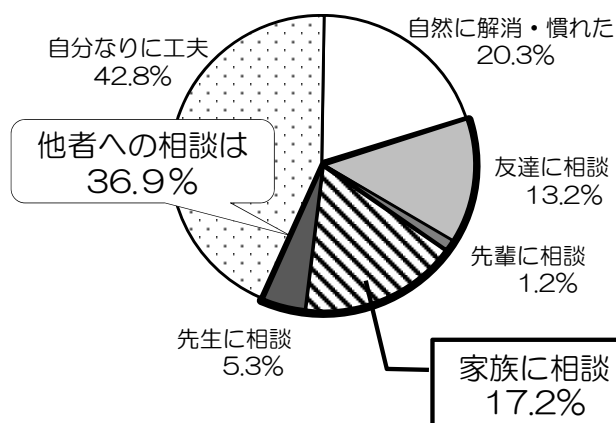
【解消がうまくいった】

N=3,103  
複数回答



【解消がうまくいかなかった】

N=486  
複数回答



小学校第6学年での取り組み

活動の目的

中学校進学前の不安を軽減し、中学校生活への期待を大きくもつことができるようにする。

実施月

1 月

2 月

3 月

活動のねらい

中学校生活への期待や不安を友達と語り合うことで、相互理解を深め安心感を高めることができるようにする。

自分の気持ちを上手に伝えるスキルを学び、友達との良好な関係づくりができるようにする。

プログラム番号

〈実践①〉 P.15, 16  
「中学校生活への期待と不安を語ろう」

〈実践②, ③〉 P.17~22  
「友達との良好な関係づくり  
—自分の気持ちを伝えよう—」

学校の取り組み

《小・中連携》 P.32

- ・ 中学校教師から中学校生活についての説明を聞く。
- ・ 中学生に中学校生活についての質問をし、それに答えてもらう。

- ※ 小学校の学習内容の定着を図ることができるようにする。
- ※ 中学校生活への不安を相談する機会をつくる。（教育相談週間の設定）



中学校への段差を

保護者の取り組み

《保護者が子どもを支

学力の  
定着を図る

子どもを  
理解する

めの支援のポイント  
るためのプログラムの構成

中学校第1学年での取り組み

中学校生活に対する驚きや戸惑いの解消を適切に行うことができるようにする。

4 月

5 月

問題解決のスキルを学び、集団生活でのトラブルに対処することができるようにする。

入学後の驚きや戸惑いを上級生や友達と語り合うことで、対処法を知り安心感を高めることができるようにする。

〈実践④〉 P.25, 26  
「学級の良い人間関係づくり  
ーグループ活動を楽しくー」

〈実践⑥〉 P.30, 31  
「中学校生活を語ろう」

〈実践⑤〉 P.27~29  
「学級の良い人間関係づくり  
ー安心できる学級を目指してー」

《中学校生活についてのガイダンス》 P.33  
授業の受け方、教科ごとの決まり、テスト勉強の仕方、家庭学習のポイント、通知表の見方など具体的に説明する。

- ※ 学習習慣を振り返り、学習面での課題を解決することができるようにする。
- ※ 自分では解消が難しいことを相談する機会をつくる。（教育相談週間の設定）



なだらかにする

えるための取り組み》 P.34

生活習慣の  
定着を図る

保護者間の良  
好な人間関係  
づくり

# 中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムの有効性 不登校出現率・欠席日数

\* 「中学校生活をスムーズに始めるためのプログラム」はP.11以降に掲載しています。

## <平成24年度岡山県の実態>

平成24年度の岡山県における中学校第1学年の不登校生徒数は、359人です。そのうち新規に（又は再び）不登校になった生徒数の占める割合は61%と他学年と比較して最も高くなっています(表1)。岡山県では、不登校児童生徒の減少に向けて、中学校第1学年で新たな不登校を生まないために、小学校から中学校への接続時における児童生徒の課題、いわゆる中1ギャップの解消に向けた具体的な取り組みが必要となっています。

表1 学年別「新規」「継続」不登校児童生徒数(国公立計)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
新規	17人	21人	37人	53人	75人	71人	219人	245人	167人
継続		19人	26人	40人	49人	77人	140人	298人	422人
不登校児童生徒数に占める「新規」の割合		53%	59%	57%	60%	48%	61%	45%	28%

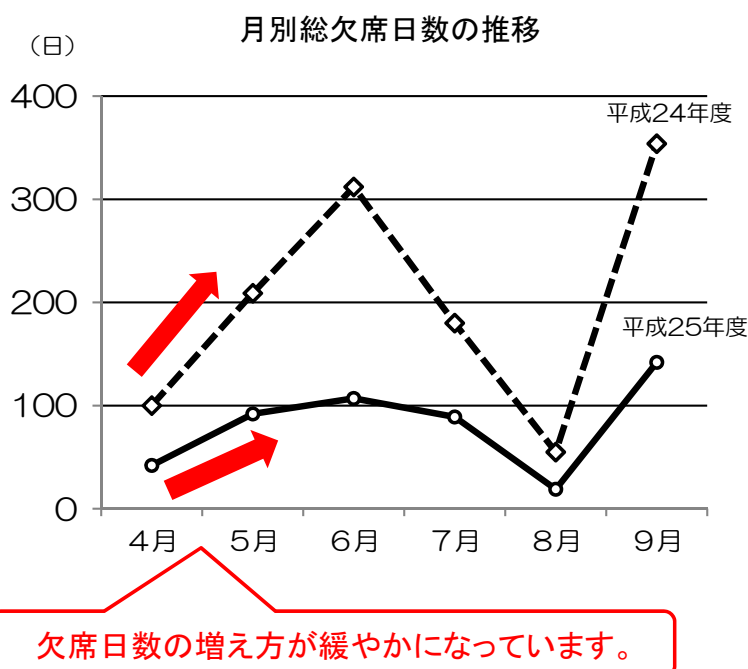
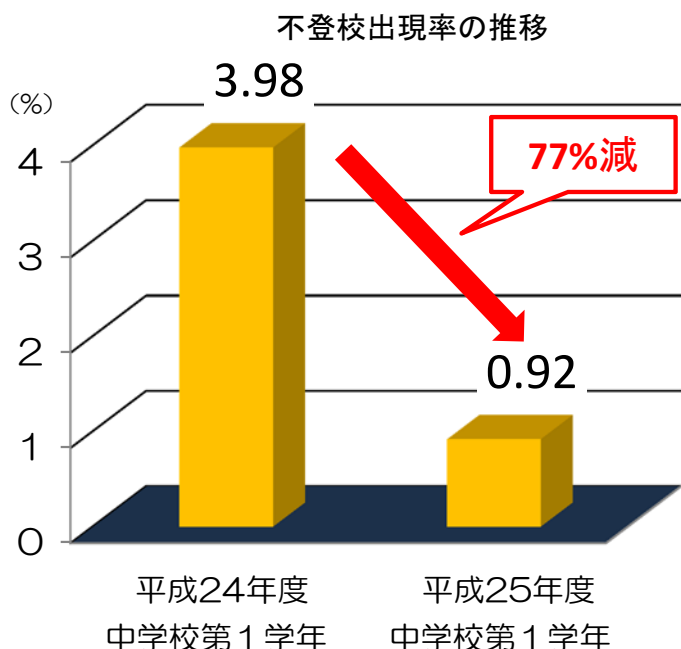
出典：「児童生徒の問題行動等に関する調査結果について」（2013）  
岡山県教育庁義務教育課生徒指導推進室

## <協力校の中学校第1学年におけるプログラム実施後の変化>

協力校でプログラムを実施した結果、不登校出現率及び総欠席日数の変化は次のとおりです。



※ 不登校出現率、総欠席日数は共に協力校3校のデータを基に集計しています。（調査期間：4月～9月）



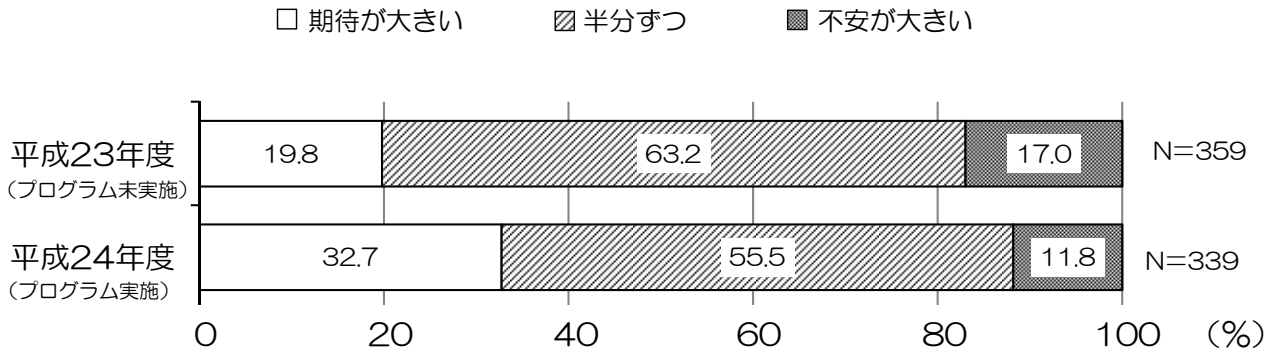
協力校の不登校出現率について、平成24年度中学校第1学年（プログラム未実施）で、岡山県の平均2.62%を上回る出現率であったものが、平成25年度中学校第1学年（プログラム実施）では、協力校の3校ともに大きく減少しました。また、協力校の月別総欠席日数については、入学して間もない4月の欠席日数が平成24年度に比べて約6割減少しており、その後、6月までの欠席日数の増え方も、平成24年度に比べて緩やかに推移していることが分かります。このことから、プログラムを実施したことによる効果も一因であることがうかがえます。



# 中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムの有効性 アンケート調査結果

## 1 小学校第6学年児童の中学校生活への不安（予期不安）

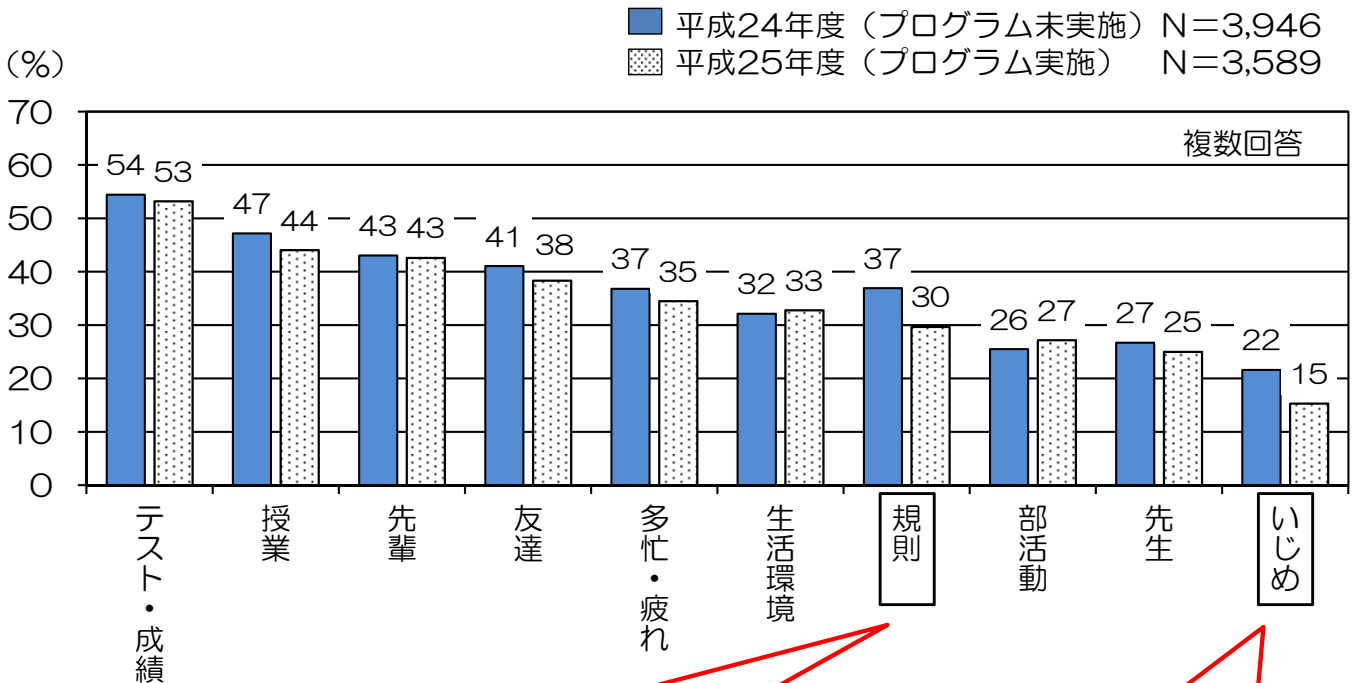
※ 平成23年度と平成24年度の両方でデータを得ることができた小学校9校の比較



プログラムを実施し、中学校生活の具体的なイメージをもつことができるようにした結果、「不安が大きい」と回答した児童が減り、「期待が大きい」と前向きな回答した児童が大幅に増えました。

## 2 中学校第1学年生徒が中学校入学後を感じる驚きや戸惑い（リアリティショック）

※ 平成24年度と平成25年度の両方でデータを得ることができた中学校3校の比較



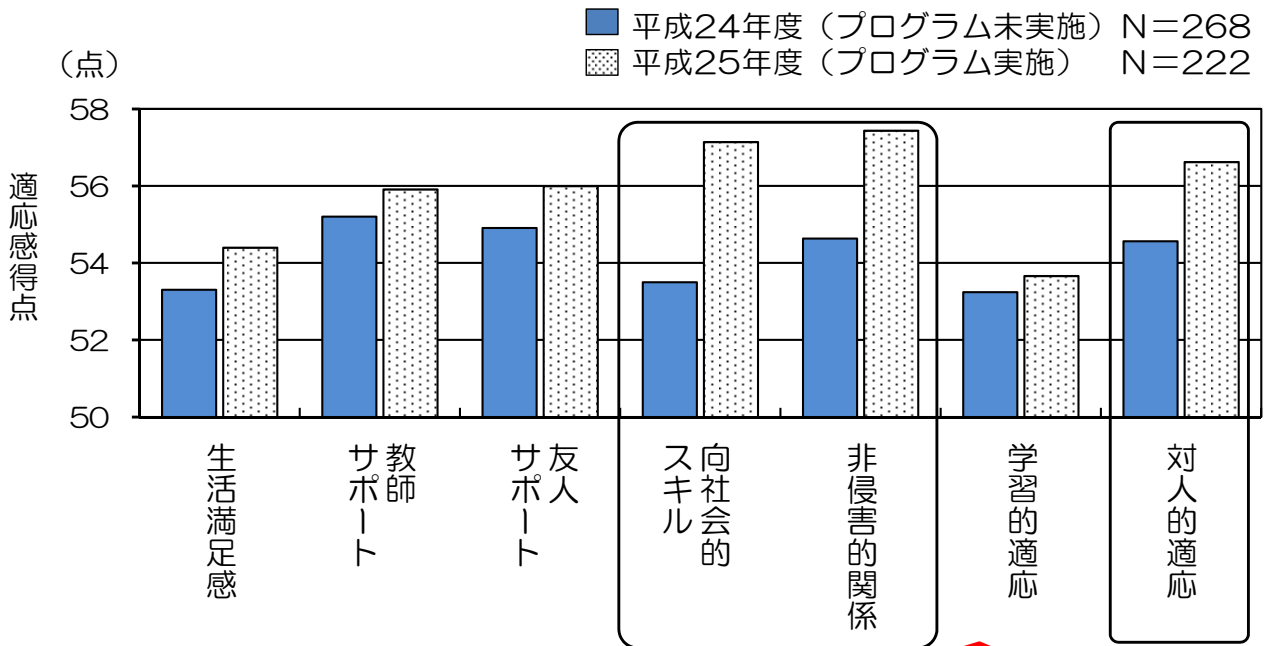
中学校生活のガイダンスを丁寧に行うことで、どのような規則があるのかを明確にし、併せて良好な人間関係づくりを促進する活動を行ったことで、友達と規則についての確認をしやすくなり「規則」に対するリアリティショックが減ったのではないかと考えられます。

友達との良好な関係づくりを促進する活動や、いじめの問題を扱うプログラムを実施したことで「いじめ」に対するリアリティショックが減ったと考えられます。

# 中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムの有効性 アンケート調査結果

## 3 学校適応感（学校環境適応感尺度「アセス」を用いた学校生活への適応感）

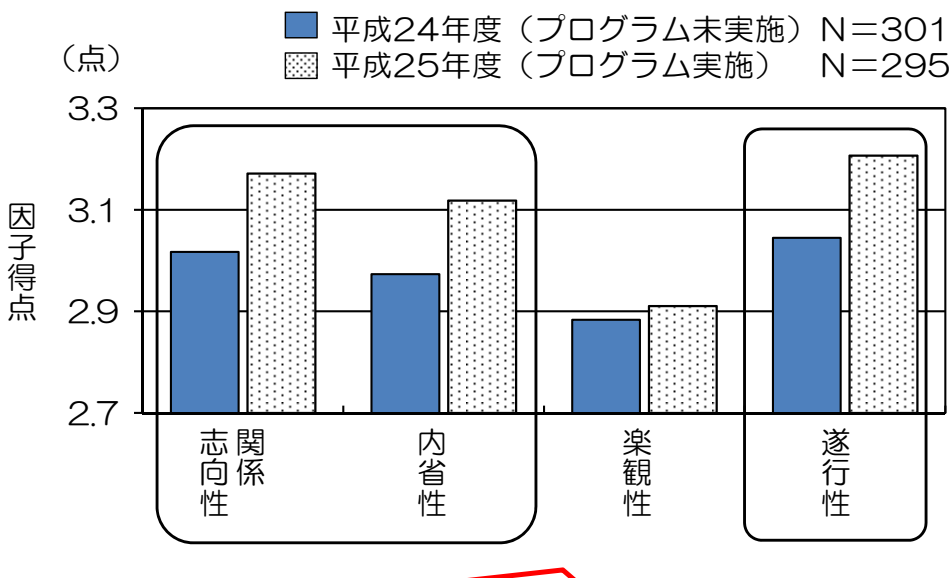
※ 平成24年度と平成25年度の両方でデータを得ることができた中学校3校の比較



人間関係を維持するスキルを学ぶ活動を行ったことで、生徒の人間関係づくりへの不安が軽減され、「向社会的スキル」（友達への援助や友達との関係をつくるスキルをもっていると感じている程度）や「非侵害的関係」（無視や意地悪などの拒否的、否定的な友達関係が無いと感じている程度）の値が特に高くなったと考えられます。そのことで、「对人的適応」も高まったといえます。

## 4 折れない心，困難から立ち上がる力（レジリエンス）

※ 平成24年度と平成25年度の両方でデータを得ることができた中学校3校の比較



友達との語り合いの活動を行ったことで、生徒相互の理解を深めることができ、「関係志向性」（ネガティブな心理状態を立て直すために他者との関係を基盤にしようとする心性）、「内省性」（自分の判断や行動を見直そうとする態度）の値が高くなったと考えられます。また、協力してグループ活動ができるよう働きかけを考え、話し合いの場を設けることで「遂行性」（困難と感じることに対しても自ら取り組もうとする態度）の値が高まったと考えられます。

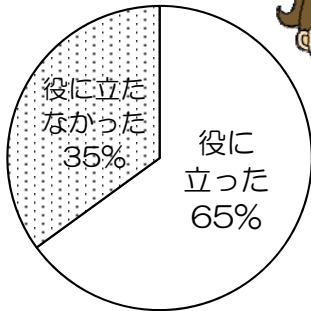
# 中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムの有効性

## 活動した生徒の声

平成25年9月中学校第1学年実施「プログラムの効果についてのアンケート」

質問1 小学校第6学年の3学期に行った「中学校生活への期待と不安を語ろう（すごろく）」や「自分の気持ちの伝え方」「嫌なことをされたときの自分の気持ちの伝え方」の活動は中学校生活への不安を軽くするのに役立ちましたか？

### 役に立った理由



- ・ 中学校で何をやるか知ることができたから。
- ・ グループ活動を楽しくと、いろんな人と友達ができ、困ったことなど相談できるから。
- ・ 先輩とどう付き合えばよいか、どうすれば仲良くなるか、小学校の時との違いに驚いたけど、プログラムの活動をしてどう対応すればよいか分かったから。
- ・ 活動した内容と同じような出来事が実際に起こり、そのときに自分の気持ちを伝えることができたから。
- ・ 中学校は小学校と違う所がいっぱいあったから。
- ・ 一番心配だった友人関係の不安が軽くなったから。

### 役に立たなかった理由

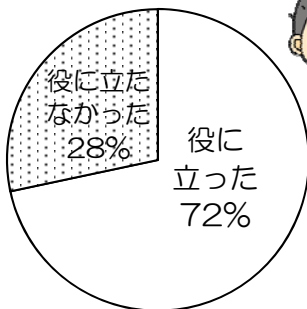


- ・ 不安がなかったから。
- ・ プログラムの内容を忘れていたから。
- ・ いざというときに使えなかったから。
- ・ すごろくで話すだけでは不安は軽くならなかったから。

「役に立たなかった」と答えた生徒の約四分の一は「不安がなかった」と答えています。

質問2 中学校第1学年の1学期に行った「グループ活動を楽しく」（スキル学習）と「安心できる学級を目指して」（いじめ防止）は中学校生活での驚きや戸惑いを軽くするのに役立ちましたか？

### 役に立った理由



- ・ 自分がやめてほしいと思うときにしっかりと伝えることができたから。
- ・ 自分の気持ちを、友達などに伝えられなくて困っていたときに、どうすればよいか分かったから。
- ・ 自分の気持ちの伝え方を勉強して、もし何かあったときに自分の気持ちを伝える自信がついたから。
- ・ すごろくを行ったときに、いろんな人と相談をしたり、自分が思っていること交流したりすることができたから。
- ・ みんなの意見を聞いているうちに、「自分だけじゃない」と思えたから。
- ・ 自分の気持ちを聞いてくれる人がいてうれしかったから。
- ・ 悩みや不安は、言葉や文字にするだけで、その悩みが小さく思えるので、それだけでも不安は軽くなるし、内容がとてもよかったので、不安を取り除けたから。

### 役に立たなかった理由



- ・ 驚きや戸惑いがなかったから。
- ・ プログラムの内容を忘れていたから。
- ・ 私には合わない方法だったから。
- ・ すでに分かっていることだったから。

「役に立たなかった」と答えた生徒の約三分の一は「驚きや戸惑いがなかった」と答えています。

# 中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムの有効性 実践した教師の声

児童自身の不安は大きいと思うが、教師も担任した児童がうまく中学校へ適応できるか心配である。教師にとっても、このプログラムを実施したことで、この時期の児童が抱えている期待や不安が分かり、今までの取り組みに関連付け、改善していけばより効果的になると思う。  
(小学校教師)

中学校に対する不安を共有でき、中学校に行っても友達と頑張ろうという思いを自然にもつことができたように感じた。  
(小学校教師)

中学校生活をスムーズに始めさせたいという教師の意識がさらに強まったように思う。  
(小学校教師)

中学校で出会う新しい友達と接する前に、相手のことを大切にしながら、自分の考えも主張することが大切であるということを確認できよかった。  
(小学校教師)



実践①について、すぐろくを実施する前に、各マスの内容を、全体で丁寧に確認しておく、児童が自分の考えをもってから、すぐろくに組み組めると思う。  
(小学校教師)

入学後の多忙な時期のプログラムで時間確保に苦慮したが、このような内容の取り組みは必要であると感じた。日頃から、短時間でもよいから、継続して行うことで、より効果が得られると思う。また、このプログラムの内容を年間計画に組み込んでおくと、毎年実践しやすくなると思う。  
(中学校教師)

生徒への意識付けや学校独自の取り組みのきっかけとしても扱える、何より教師のモチベーションアップにもつながったと思う。  
異学年交流の場が減ってきているので、今後このプログラムに工夫を加え、部活動や行事、委員会などでも活用できる、学校オリジナルのものにしていけばよいと思う。  
(中学校教師)

実践②③について、グループで話し合う時間が設定されているので、個人では思いつかなかった児童も、友達の考えを聞きながらより良い考えを見付けることができた。  
ロールプレイングは、児童が楽しみながら取り組める活動でよかったが、児童の実態に合わせた場面設定の工夫をする必要があった。  
(小学校教師)

## 有効性についてのまとめ

「中学校生活をスムーズに始めるためのプログラム」についての効果検証で得られた結果の背景には、協力校で学校の実態と擦り合わせプログラムに工夫を加える中で、教職員間の情報交換の場が自然に増え協働性が高まり、プログラムの有効性を高める波及効果があったのではないかと考えています。協力校の実践を基に作成した「不登校を未然に防ぐための支援の具体例」は、既に多くの学校で取り組みがなされているものであると思いますが、この具体例を参考に学校独自の取り組みや、新しい発想での工夫などを盛り込んでいく過程が重要であると考えます。

「このプログラムを実施することで、良い結果が得られる」という捉えではなく、教職員が日常的にこのような内容を意識して、学校全体で計画的に教育活動の中に取り入れ実践していくことが大切です。「中学校生活をスムーズにスタートさせたい」という、意識の高い小・中学校の教職員の小・中連携の取り組みが、このような結果となって表れたといえます。

# 中学校生活をスムーズに始めるための プログラム

- 「小学校第6学年での活動」(P.13~22)「中学校第1学年での活動」(P.23~31)には実践①~⑥を掲載し、実際に児童生徒が行う活動例を紹介しています。
- 「不登校を未然に防ぐための支援の具体例」(P.32~34)は、協力校の取り組みを基に実践例をまとめています。自校で取り組む際の手がかりとして活用してください。

小学校第6学年での活動

中学校第1学年での活動

不登校を未然に防ぐための支援の具体例

## 実践①～⑥を実施する上での留意点

小学校第6学年での活動と中学校第1学年での活動には、ソーシャルスキル（対人関係や集団行動を上手に営んでいくための知識と技能）教育 や構成的グループエンカウンター（本音を表現し合い、それを互いに認め合う体験）などの心理教育の手法を取り入れています。児童生徒が何のために行う活動なのかが分かるように説明を十分行い、児童生徒の実態に合わせ、計画的に取り組むことが大切です。学校生活のあらゆる場面で実践的な態度が育成できるよう、継続的に取り組むことが必要です。

- \* 児童生徒が使用するワークシートは直接コピーして使用できるよう「ワークシート集」（P.35以降）へまとめて掲載しています。

## 小学校第6学年での活動

《1月～3月に実施》

中学校進学前の不安を軽減し，中学校生活への期待を大きくもつことができるようにする。

### • 実践①

中学校生活への期待と不安を話す活動

中学校生活への期待や不安を友達と語り合うことで，相互理解を深め安心感を高めることができるようにする。

### • 実践②， 実践③

友達との良好な関係づくりのための活動

自分の気持ちを上手に伝えるスキルを学び，友達との良好な関係づくりができるようにする。

- 各実践で，どのワークシートを使用すればよいのかを示すシート番号を掲載しています。「ワークシート集」のワークシート下部に「中学校生活をスムーズに始めるためのプログラム シート1～13」と記載していますので，その番号と照らし合わせて使用してください。
- 「友達との良好な関係づくりー上手な聞き方ー」ワークシート（シート1）は実践①の事前活動で使用します。
- 実践③のワークシートは3種類あります。それぞれ場面が異なっているので学校の実態に合わせて使用してください。

# 小学校でのプログラム実施に向けて ーねらいとポイントー

## 実践①～③のねらい

中学校進学前の不安を軽減し、不安より期待を大きくもつことができる。

## ポイント

- 中学校生活のイメージをもつことができるようにする。
- 中学校生活への期待や不安を話す場をつくる。【実践①】
- 自分の気持ちを上手に伝えるスキルを身に付けることができるようにする。【実践②】【実践③】

## 中学校生活に対する不安への具体的な働きかけの例

中学校進学に対する不安の具体（上位4項目）

- |       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| 1 勉強  | 既習の学習内容の復習                      |
| 2 友達  | 互いの状況や気持ちを聞き合える関係づくり            |
| 3 先輩  | 中学校入学説明会などでの中学生との交流活動の設定        |
| 4 いじめ | 相手の気持ちに配慮して、自分の気持ちを上手に伝えるスキルの学習 |
- \* 全体的に 安心して自分の気持ちを話せる場づくり、きっかけづくり  
保護者向け説明会や研修の場の設定

## プログラムの流れ

中学校生活についての説明をする。

- 中学校生活のイメージをもつことができるようにする。

中学校生活への期待や不安を話す場をつくる。

- 話すことで自分の気持ちが意識できるようになる。
- 友達との語り合いを通して相互の理解を深め、安心感を高めることができるようにする。

自分の気持ちを上手に伝えるスキルを身に付けることができるようにする。

- 上手な伝え方が分かることで自信をもち、安心して行動できるようにする。

教師・保護者の支え



# 実践①の概要

## 「中学校生活への期待と不安を語ろう」

(すごろく《中学校生活への期待と不安を語ろう》(シート2)を活用した語り合い)

### ねらい

中学校生活への期待と不安を話すことで、自分の気持ちを意識し友達と語り合うこと  
によって相互理解を深め、安心感を高める。

### 事前活動

上手な聞き方についてのポイントを確認しておく。

\* 「友達との良好な関係づくりー上手な聞き方ー」(シート1)を使用

#### 話を聞く時のポイント

- ① 体を向け、話す人を見る。
- ② 相づちを打ったり、うなずいたりする。
- ③ 最後まで話を聞く。
- ④ 否定したり批判したりしない。

ルールを守ること  
で全員が楽しめる  
ことも味わえる  
ようにしましょう。

\* 話を聞くポイントは、黒板等に掲示し児童が意識して活動できるよう工夫をする。

\* すごろく《中学校生活への期待と不安を語ろう》の空欄への書き込みを事前準備  
で行うこともできる。

グループは  
事前に決めて  
おきましょう。



#### 準備物

- ・ さいころ…グループに1つ
- ・ 付箋(各自名前を書き、駒にする)…一人1枚
- ・ すごろく《中学校生活への期待と不安を語ろう》  
(A3に拡大)…グループに1枚

### 活動の流れ

所要時間：20分～40分

すごろくをして中学校生活への期待や不安  
を語り合う。

聞き方のポイントを具体的  
に確認し、意識して取り組む。

自己理解や他者理解が進み、不安なのは  
自分だけではないという安心感を得る。

話を聞いてもらうことで  
「すっきりした」とか「自分  
だけではないんだ」と思える。

活動の振り返りをし、不安な気持ちは誰に  
でもあること、話すことで気持ちが軽くなる  
ことを確認する。

自分の不安な気持ちを話し  
たり、友達の不安な気持ちを  
聞いたりすることで、自分が  
どう感じたかを振り返る。

### 事後の活動

活動の内容と、中学校生活への期待と不安を家族に聞いてもらう。

# 「友達との良好な関係づくりー上手な聞き方ー」

## ワークシート (記入例)

6年 組 番 名前

プログラム

小学校第6学年での活動 実践①

1 聞く人が次のような態度で聞くと、話す人はどのように感じるだろう？

### 《聞き方1》

- 話すのが嫌になりそう。
- 聞いてもらえていないような気がする。
- 悲しくなりそう。
- 腹が立つ。

こんな態度で聞いているよ

- 相手の顔を見ないで
- つまらなそうに
- うわの空で
- 他のことをしながら



### 《聞き方2》

- 話しやすい。
- 聞いてもらってうれしい。
- どんどん話したくなる。

こんな態度で聞いているよ

- 相手の顔を見て
- 関心をもって
- 内容をイメージしながら
- 質問をしながら



2 話を聞く時のポイントをまとめよう。

① 体を向け、話す人を見る。

② 相づちを打ったり、うなずいたりする。

③ 最後まで話を聞く。

④ 否定したり、批判したりしない。

## 実践②の概要

「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(1)ー」

ねらい

友達との良好な関係づくりのためには相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを上手に伝えたりすることが大切であることに気付く。

事前活動

上手な聞き方について確認する。

六つの伝え方の場面 (シート3)

- ① 友達を褒めたり感謝したりする場面
- ② 友達に助けを求める場面
- ③ 友達に自分の限界を伝える場面
- ④ 嫌なことをされたときにそれを友達に伝える場面
- ⑤ 友達と違う意見を言う場面
- ⑥ 友達の頼みや誘いを断る場面

活動の流れ

所要時間：20分～40分

六つの伝え方の場面について自分の伝え方をワークシート (シート3) の吹き出しに個人で記入する。

六つの伝え方の場面で自分の気持ちをどう伝えたらよいか考える。

場面ごとにどのような伝え方がよいかグループで考える。

相手の気持ちを考えて、よりよい伝え方を見付ける。

グループで話し合った、よいと思う伝え方とその理由を全体に発表する。

自分の思いを我慢するのではなく、嫌なことは嫌と言うことも大切なことに気付く。

自分の気持ちを上手に伝えることができる場面とできていない場面を個人で確認する。

自分はどのような場面を伝えるのが苦手なのかを確認する。

事後の活動

自分の気持ちを上手に伝えることの大切さについて帰りの会等で振り返り、日常生活の中で上手に気持ちを伝えようとする意欲を高める。

# 「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(1)ー」

## ワークシート

(記入例)

6年 組 番 名前

1 次の場面①～⑥であなたはどのように言って気持ちを伝えますか？

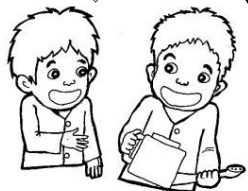
プログラム

小学校第6学年での活動 実践②

**①** 友達をほめたり感謝したりする場面  
自分一人で係の仕事をしているとき

手伝ってあげるよ。

- ありがとう！助かるよ！
- うれしい！ありがとう！

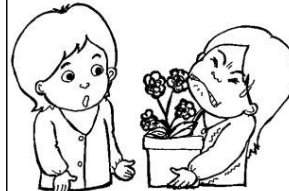


**②** 友達に助けを求める場面

自分一人ではちょっと大変な仕事を、任せられているとき

今何してるの？

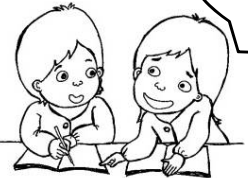
- ちょっと一緒に持ってくれる？
- ごめん！手伝ってられない？



**③** 友達に自分の限界を伝える場面  
自分がよく分からないところを、友達に聞きたいとき

なあに？

- ここ教えて。
- 私ここが分からないんだ。教えてくれる？



**④** いやなことをされたときにそれを友達に伝える場面

自分の消しゴムを友達が勝手に使っているとき

- その消しゴムぼくのなんだけど。ぼく、今使いたいんだ。
- その消しゴムぼくのだから返してくれる？



**⑤** 友達とちがう意見を言う場面  
友達が提案した遊びとはちがう遊びがしたいと言うとき

みんなをさそっておにごっこしよう。

- せっかくみんなをさそうのなら、私はかくれんぼがいいと思うんだけど？



**⑥** 友達のたのみやさそいを断る場面  
友達がなわとびにさそってくれたが、それを断るとき

なわとびしない？

- ごめんね今日は読書がしたいんだ。また今度しよう。
- 今日はもう約束してるからお昼休みならできるよ。



2 あなたが上手に自分の気持ちを伝えられている場面はどれですか？右下の四角に○印を付けましょう。(いくつ選んでもよい)

## 実践③の概要

### 「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(2)ー」

#### ねらい

自分の気持ちを上手に伝えるスキルを知り、日常生活で生かすことができる。

#### 事前活動

「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(1)ー」の活動

前時の六つの伝え方の場面から自校の実態に合わせて、児童が自分の気持ちを伝えることを苦手とする④、⑤、⑥のいずれかの場面を取り上げる。

- ④ いやなことをされたときにそれを友達に伝える場面 (シート4)
- ⑤ 友達とちがう意見を言う場面 (シート5)
- ⑥ 友達のたのみやさそいを断る場面 (シート6)

#### 活動の流れ 所要時間：20分～40分

どのように伝えるのがよいか、理由もあわせて個人で考える。

ワークシートの選択肢の中から選ぶ。

個人で考えた内容についてグループ内で話し合い、全体へ発表する。

グループの話し合いの中で、相手の気持ちを考えたよりよい伝え方や、自分の気持ちを上手に伝えるポイントに気付く。

上手な伝え方のポイントをまとめる。

非言語の部分にも触れ、上手な伝え方のポイントに気付く。

上手な伝え方のポイントを使って二人組になり応答の練習をする。

場面が変わっても上手な伝え方のポイントを押さえて伝える。

#### 事後の活動

自分の気持ちを上手に伝えるポイントについて帰りの会等で振り返り、上手な伝え方を日常生活の場面で意識できるようにチェック表等を活用して定着を図る。

# 「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(2)ー」

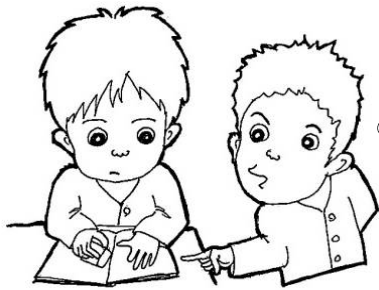
## ④ いやなことをされたときにそれを友達に伝える場面 ワークシート (記入例)

6年 組 番 名前

プログラム

小学校第6学年での活動 実践③

1 あなたの消しゴムを友達が勝手に使っています。返してほしいと思っています。



勝手に使ってる……。いやな感じだな。  
ぼくも使いたいんだけどな、「返して」とい  
きなり言うのも感じ悪いか？  
どんなふうに言おうかな？

？

(1) どんな伝え方がよいでしょう。

ア 「それはぼくの消しゴムだぞ。何で勝手に使ってるんだよ。返せよ！」

イ 「あの…。消しゴムが…。ああ。いや、何でもないよ…。」

ウ 「その消しゴム、ぼくのなんだけど、返してもらっていい？」

(2) なぜ、その伝え方がよいか、グループで話し合ひましょう。

2 上手な伝え方のポイントをまとめましょう。

- 自分の気持ちを伝え、その理由を伝える。
- あいまいな言い方になったり、強い口調になったりしないように言う。

3 次の場面で練習してみましょう。

A君は、仲良しのB君と二人にいる時によくニックネームで呼ばれます。A君はその呼ばれ方がいやだなと思っています。その気持ちをB君にどのように伝えますか？

例) ぼくはその呼ばれ方より、名前で呼ばれる方が好きなんだ。これからは、名前で呼んでよ。

# 「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(2)ー」

## ⑤ 友達とちがう意見を言う場面 ワークシート

(記入例)

6年 組 番 名前

1 友達といっしょに遊ぼうと思います。しかし、何をして遊ぶかで意見がちがいました。



(1) どんな言い方がよいでしょう。

ア 「あっ、ううん。そっそうだね…。」

イ 「おにごっこもおもしろいけど、今日は、ドッジボールにしない？ドッジボールもいいかなと思うんだ。どうかなあ？」

ウ 「ええ。また、おにごっこ？いつも自分のしたい遊びばかり言って、勝手だよ。もういっしょに遊ぶのやめた！」

(2) なぜ、その言い方がよいか、グループで話し合みましょう。

2 友達とちがう意見を言う場面で、自分の気持ちを上手に伝えるときのポイントをまとめましょう。

- 相手の意見を聞き、気持ちを分かってあげようとする。
- 理由を含めて、自分の考えを言う。

3 次の場面で練習してみましょう。

全校集会でクラスで出し物をするようになりました。まず、グループで案を出すことになりました。Aさんは「劇がしたい」と言いました。あなたは合奏がしたいと思っています。どのように自分の意見を言いますか？

例) 劇もいいと思うけど、私は、みんなで一緒に演奏できるから、合奏がいいと思うよ。

# 「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(2)ー」

## ⑥ 友達のたのみやさそいを断る場面 ワークシート

(記入例)

6年 組 番 名前

プログラム

小学校第6学年での活動 実践③

1 友達が遊びにさそってくれました。あなたは読書がしたいので断ろうと思います。どのように断るか考えて吹き出しに書きましょう。



(1) どんな断り方がよいでしょう。

- ア 「さそってくれてありがとう。ごめんね、今日は読書がしたいんだ。また今度なわとびする時さそってね。」
- イ 「今日は読書したいし。なわとびなんかしんどいから私きらい！」
- ウ 「あっ、ううん。そっそうだね…。」

(2) なぜ、その断り方がよいか、グループで話し合ひましょう。

2 友達のさそいを断るときのポイントをまとめましょう。

- ・ (さそってくれたときには) さそってくれたことにお礼を言う。
- ・ 謝りながら、断る理由を伝える。
- ・ 優しく言う。

3 次の場面で練習してみましょう。

Aさんは今週の給食当番です。あなたは給食当番ではありませんが、Aさんから「給食の食器を取りに行ってきた」と言われました。あなたは別の係の仕事があります。どのように断りますか？

例) ごめんね。私は、係の仕事をしなくちゃいけないから、食器は取りに行けないよ。別の人にたのんでみたら？



# 中学校第1学年での活動

《4月，5月に実施》

中学校生活に対する驚きや戸惑いの解消を適切に行うことができるようにする。

## ・実践④，実践⑤

### 問題行動解決のスキルを学ぶ活動

問題解決のスキルを学び，集団生活でのトラブルに対処することができるようにする。

## ・実践⑥

### 入学後の驚きや戸惑いを語り合う活動

入学後の驚きや戸惑いを上級生や友達と語り合うことで，対処法を知り安心感を高めることができるようにする。

- ・ 各実践で，どのワークシートを使用すればよいのかを示すシート番号を掲載しています。「ワークシート集」のワークシート下部に「中学校生活をスムーズに始めるためのプログラムシート1～13」と記載していますので，その番号と照らし合わせて使用してください。
- ・ 実践④で使用するワークシート（シート7，8）は2種類ありますが，学校の実態に当てはまる場面のものを使用してください。
- ・ 「私たちの行動宣言」（シート10）は教室等に掲示して生徒の意識付けに活用してください。上下同じものなので，切り取り線で切り取って下さい。
- ・ 実践⑥で選んで使用する『さいころトーク「中学校生活を語ろう」話題シート』（シート12）は話題を変えることで各教科などでも使用できます。
- ・ メッセージカード（シート13）は，異学年交流をした後，互いに感想やお礼のメッセージを交換する場合に使用してください。

## 実践④～⑥のねらい

中学校生活での適応感を高めるために、入学後の驚きや戸惑いを解消することができる。

## ポイント

- 中学校生活についての情報を具体的に知らせる。
- 集団生活でのトラブルに対処するスキルを身に付けることができるようにする。【実践④】【実践⑤】
- 入学後の驚きや戸惑いを語り合う場をつくる。【実践⑥】

## 解消が難しい項目への具体的な働きかけの例

解消が難しかった中学校生活への驚きや戸惑い（上位5項目）

- |          |  |
|----------|--|
| 1 いじめ    | • グループや学級内での問題を解決するスキルの学習  |
| 2 テスト・成績 | • ガイダンスの充実<br>• 学習支援   |
| 3 多忙・疲れ  | • 自分の状況や気持ちを聞いてもらい、気持ちに共感してあげることができる場づくり（多忙感の解消）<br>• 基本的な生活習慣の定着を図るために、家庭への協力を求める |
| 4 先輩     | • 異学年交流  |
| 5 部活動    | • 部活動での人間関係づくり   |
| * 全体的に   | • 教師に相談する機会の設定、きっかけづくり<br>• 保護者向け説明会や子どもの理解と対応について研修できる場の設定                        |

## プログラムの流れ

中学校生活についての情報を具体的に知らせる。

- 具体的に知らせることで見通しをもち、余裕をもって行動できるようにする。

集団生活でのトラブルに対処するスキルを身に付けることができるようにする。

- 学級全体で学ぶことにより、学級が安心できる場になるようにする。
- スキルを身に付けることで、行動に自信をもつことができるようにする。

入学後の驚きや戸惑いを語り合う場をつくる。

- 友達や先輩から驚きや戸惑いの内容や対処法を聞き、安心感を高めることができるようにする。

教師・保護者の支え

# 実践④の概要

「学級の良い人間関係づくりーグループ活動を楽しくー」

## ねらい

非協力的な態度に気づき、協力してグループ活動を行うことができるようにするために、非協力的な態度をとる人に対してグループ活動への参加を求める接し方が分かり、働きかけることができる。

## 事前活動

グループ（班）編成時に、グループで自己紹介等の関係づくりを行う。



中学校に入学し、新しい友達とグループ活動を行う場面が増えます。どんなメンバーとでも協力して活動できるようにするために、身近な場면을例示して考えます。ワークシート（シート7, 8）は2種類あります。学校の実態に当てはまる事例のものを選んで使用してください。

## 活動の流れ

所要時間：20分～40分

ワークシートのイラストを見て、自分の気持ちや周りの人への影響を個人で考える。

非協力的な態度に気づき、影響についても考える。

周りの人の気持ちや周りの人への影響についてグループで話し合い、全体に発表する。

どのような態度か、どのような影響があるかを確認し、自分のとるべき行動が分かる。

嫌だと感じる態度にはワークシートのイラストの他にどのような態度があるかグループで話し合う。

これまでに経験した場面を想起する。

自分のグループに、嫌だと感じる態度をとる人がいた場合、どう対応すればよいのか個人で考え、ワークシートに記入する。

非協力的な態度をとる人への接し方が分かる。

協力的な態度について確認する。

## 事後活動

個々の生徒がまとめたもの等を教室に掲示し、朝の会や授業の開始時などに確認して定着を図る。

## 《実態に合った場面のワークシートを利用》



① やる気のない返事をする。

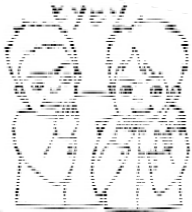


② 他の人のやる気をそく言動をする。

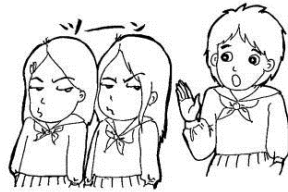


③ 自分勝手なことを言う。

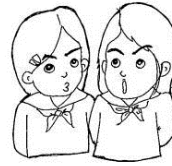
1 グループ活動をするとき、①から④のような態度をとる人がいると、周りの人はどんな気持ちになるでしょうか。また、①から④のような態度はグループにどんな影響を与えますか。



① 二人でいつもひそひそ話をする。



② 他の人に返事をしない。



③ 二人が同じ仕事（役割）でないと嫌がる。



④ 話し合いに参加しない。

### 気持ち

- ・ 仲間外れにされてるような気持ち。
- ・ 嫌な感じがする。
- ・ 悲しくなる。
- ・ どうしたらよいか分からなくなる。
- ・ イライラする。
- ・ 腹が立つ。 など

### 影響

- ・ 他のメンバーのやる気がなくなる。
- ・ すべきことが進まなくなる。
- ・ グループの雰囲気が悪くなる。
- ・ 言い争いになる。 など

2 1のような態度の他に、グループ活動をするときに周りの人に嫌だと感じさせるのはどのような態度でしょうか。

グループ活動には関係のない話ばかりして活動に参加しない、仲良しの人に楽な仕事を任せようとする、役目を果たさない、投げやりな態度や乱暴な言い方をする、自分たちの意見を強引に通そうとする。 など

3 もし、自分のグループに周りの人が嫌だと感じる態度をとる人がいたら、あなたはどのように声をかけますか。

私も〇〇する（協力する）から、△△しようよ。  
（相手に一方的に「△△して」とならないようにする）



4 もし、自分が周りの人に嫌だと感じさせる態度をとってしまい、自分のグループの人から注意をされたら、どう答えますか。

ごめん、これからは気を付けるよ。することがよく分からなくてしゃべってしまったんだ。  
（理由や気持ちを添える）



5 グループ活動を協力的に行うために、あなたはどのように行動すべきだと思いますか。

- ・ みんなに聞こえる声で意見を言う。
- ・ 全員が意見を言えるように工夫する。
- ・ みんなで活動することを意識する。
- ・ 自分ができることは何かを考える。
- ・ 責任をもって仕事は最後までする。 など

# 実践⑤の概要

「学級の良い人間関係づくり—安心できる学級を目指して—」

## ねらい

いじめが起きない安心できる学級にするために自分たちができる行動を具体的に考える。

## 事前活動

学校での生活は楽しく送れているか、いじめや嫌な思いをすることはないか考えておく。



パソコンやスマートフォン等を利用したネット上のいじめも増えていることについても触れておく必要があります。

\* 「学級の良い人間関係づくり—安心できる学級を目指して—」 (シート9) を使用

## 活動の流れ

所要時間：20分～40分

ワークシートの1のイラストから、どんなことがいじめなのかを具体的に理解する。

「じゃれ合い」と「いじめ」の違いに気付く。

ワークシートの2(1)の図からいじめの構造と、事例の登場人物の立場を個人で考える。

観衆や傍観者もいじめを促進させることに気付く。

事例の登場人物の気持ちを個人で考え、ワークシートの2(2)に記入する。

登場人物の立場から、それぞれの気持ちを考える。

それぞれの登場人物に伝えたいことを各自で考えワークシートの2(3)に記入し、次にグループで考え、全体に発表する。

登場人物の立場から、どのように行動すべきだったのかを考える。

いじめをなくすには、仲裁者が一人でも増えていくような雰囲気づくりが大切であることに気付く。

いじめが起きない安心できる学級にするために自分たちができることを考えグループごとに「私たちの行動宣言」(シート10)に記入する。

実際の行動につながるようにするため、自分たちができることを具体的に記入する。

## 事後活動

「私たちの行動宣言」を教室に掲示し、朝の会や授業の開始時などに確認して定着を図る。

1 悪口を言いふらしたり、無視して仲間外れにしたりすることもいじめです。他に、どんなことがいじめになると思いますか。

じゃれ合い？ いじめ？



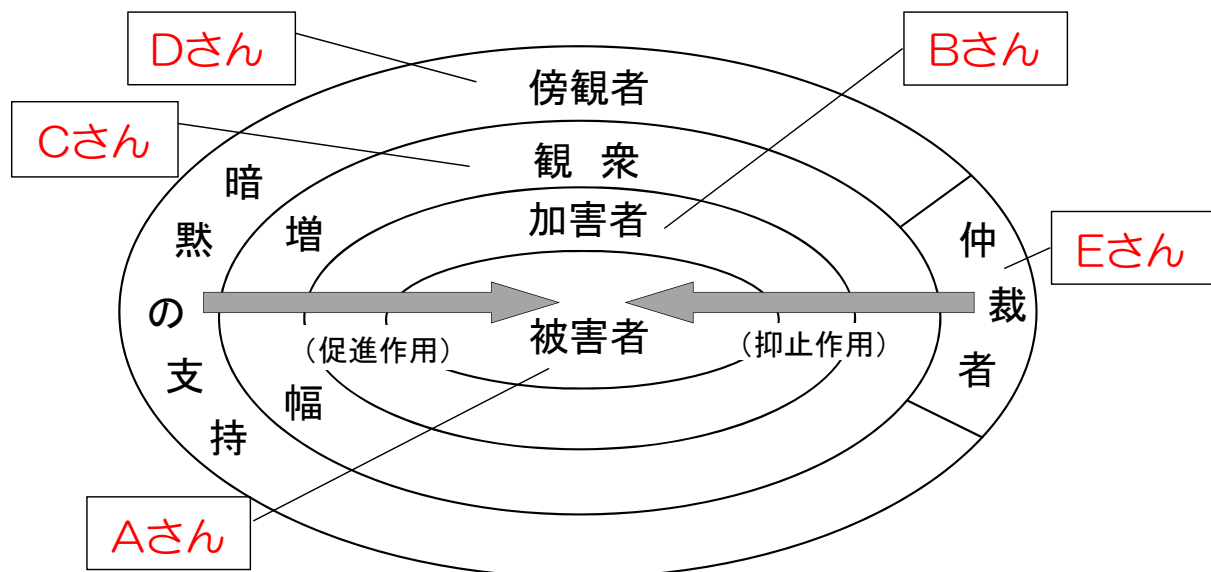
- 冷やかしたり，からかったりする。
- たたいたり，けったりする。
- いやがっている人に対してのふざけ合いやじゃれ合い。
- その人がみんなから嫌われるような噂を流す。
- その人の持ち物を隠したり，壊したりする。
- 命令して嫌なことをさせる。など

2 次の文章を読んでいじめについて考えましょう。

Aさんは、中学校に入学して間もなく、同じ学級で席が近くのBさん、Cさんと仲良くなり、一緒に行動するようになりました。しかし、BさんやCさんとは別の部活動に入部したり、学級でも新しい交友関係が広がったりするにつれ、AさんはBさんやCさんの誘いを断ることが多くなりました。BさんからAさんへのメールは、次第に「うざい」という内容に変化していきました。Cさんも、Bさんが嫌がらせのメールをしていることを知り、「ちょっと、おもしろそうじゃない。私もAさんのことはなんだか嫌だ。もっとやっちゃえ」と言い、他の人にもそのことを伝えました。さらに、Bさんは学級の他の友達に「Aさんがあなたの悪口をメールで送ってきたよ」とうそを伝えたため、Aさんは同じ学級の友達からも孤立していきました。同じ学級のDさんは仲間外れにされているAさんとは仲が良かったのでかわいそうに思いましたが、何もできませんでした。同じ学級のEさんは担任の先生に相談しました。担任の先生がAさんに話を聞いたところ、Aさんは今の状況を話し始めました。

1年 組 番 名前

(1) 次の図はいじめの構造を表しています。AからEの登場人物はそれぞれの立場の人だと思いますか。図にA～Eを書き込みましょう。



引用「いじめ集団の4層構造モデル」(1985) 森田洋司

- 傍観者：ただ見ているだけの人、見て見ない振りをする人
- 観衆：はやし立てたり、面白がったりして見ている人
- 仲裁者：いじめを止めさせようとする人

(2) AからEの登場人物はどのような気持ちだと思いますか。下の表に書きましょう。

(3) あなたはそれぞれの登場人物にどんなことを伝えたいですか。下の表に書きましょう。

	(2) 登場人物の気持ち	(3) 登場人物に伝えたいこと
Aさん	(記入例) BさんCさんとは仲良かったのに辛い。 みんな私から離れていく。 私は悪口のメールは送ってないのに。	(記入例) 辛いね。 一人で苦しまないで先生や家の人に相談しようよ。
Bさん	私たちより他の人と仲良くしているのが気に入らない。 意地悪をしてやろう。	自分がされたらどんな気持ちになるか考えようよ。 いじめは絶対してはいけないことだよ。
Cさん	Aさんに意地悪するのは面白そう。 なんだか面白いことになってきた。 みんなにも広めよう。	Bさんを止めないと、いじめているのと同じだよ。 あなたが面白がったり、みんなに広めたりしているから、いじめが更にひどくなっているんだよ。
Dさん	Aさんがかわいそう。 とばかりを受けないようにしないと私があんなふうにいじめられるのは嫌だ。	自分がいじめられるのが嫌な気持は分かるけど、声をかけたり、話を聞いてあげることはできたのではないかな。
Eさん	大変だ。Aさんがいじめられている。 いじめは絶対いけないことだから、先生に早く伝えて止めてもらおう。	Eさんが先生に報告してあげたからAさんは安心したと思うよ。 勇気を出して報告してよかったね。

# 実践⑥の概要

## 「中学校生活を語ろう」《第1学年》

(すごろく「中学校生活を語ろう」(シート11)を活用した異学年交流)

### ねらい

友達や上級生と良好な関係をつくるために、驚きや戸惑いの内容や対処法を知り、安心感を高める。

### 事前活動

入学後の驚きや戸惑いをグループで話し、上級生に聞いてみたいことを考えておく。

グループは事前に決めておきましょう。



#### 準備物

- ・ さいころ…グループに1つ
- ・ 付箋(各自名前を書き、駒にする)…一人1枚
- ・ すごろく「中学校生活を語ろう」(A3に拡大)…グループに1枚

### 活動の流れ

所要時間：20分～40分

話の聞き方のポイントを確認する。

聞き方のポイントを具体的に確認し、意識して取り組む。

入学後の驚きや戸惑いを積極的に話したり質問したりする。

「先輩や友達も戸惑っていたんだな」「そうか、私もやってみよう」と感じられるように会話を広げる。

困っていることを一人で抱え込まず、周囲の人に話してみることでよさが感じられる。

聞いてもらうことで「スッキリした」「自分だけではないんだ」と思える。

話しやすい雰囲気をつくるには、聞く側の態度が重要であることを確認する。

話す人に共感して聞くことで、互いに安心感が得られることに気付く。

### 事後活動

グループごとに交流した上級生にメッセージを書いて渡す(シート13)。

- \* 上級生(生徒会執行部や委員会の生徒)が1年生の教室に行く形態で展開してもよい。
- \* 時間の設定等ですごろくが難しい場合、『さいころトーク「中学校生活を語ろう」話題シート』(シート12)を使用しての活動に代替してもよい。



# 実践⑥の概要

## 「中学校生活を語ろう」《上級生》

(すごろく「中学校生活を語ろう」(シート11)を活用した異学年交流)

### ねらい

1年生の中学校生活に対する驚きや戸惑いを共感的に聞き、1年生からの質問に答えることを通して自己有用感を高める。

### 事前活動

- 入学時の驚きや戸惑いをグループで話し、その時の気持ちや、どのようにして乗り越えたのかについて振り返る。
- 1年生との交流活動の内容や進め方等を確認する。

グループは事前に決めておきましょう。



#### 準備物

- さいころ…グループに1つ
- 付箋(各自名前を書き、駒にする)…一人1枚
- すごろく「中学校生活を語ろう」(A3に拡大)…グループに1枚

### 活動の流れ

所要時間：20分～40分

話の聞き方のポイントを確認する。

聞き方のポイントを具体的に確認し、意識して取り組む。

1年生の話をよく聞いて、積極的に質問に答えたり、助言したりする。

「自分の経験が役立った」「喜んでもらった」と感じられるように会話を広げる。

1年生が過度に緊張せず楽しめるような雰囲気づくりに配慮する。

1年生の緊張感を汲んで、安心感につながるような声かけを意識する。

話しやすい雰囲気をつくるには、聞く側の態度が重要であることを確認する。

相づちだけではなく、アドバイスや自分はどうしたかなど具体的に話を広げていく。

### 事後活動

交流した1年生からのメッセージを読み返事を書く(シート13)。

- \* 上級生(生徒会執行部や委員会の生徒)が1年生の教室に行く形態で展開してもよい。
- \* 時間の設定等ですごろくが難しい場合、『さいころトーク「中学校生活を語ろう」話題シート』(シート12)を使用しての活動に代替してもよい。

# 不登校を未然に防ぐための支援の具体例

## 小・中連携

中学校生活がスムーズに始められるように小学校第6学年の予期不安を軽減するための連携が必要

### 情報交換

- 全国学力・学習状況調査の結果から、子どもの「強み」と「弱み」を共有し、それぞれの立場でできる具体的な改善策を考える。小・中学校の教職員が連携することで、校区全体の学力の底上げを図る。
- 小・中学校の生徒指導担当者や地域の関係機関等と情報交換し、生徒指導上の問題点や今後に向けての改善策を検討する。



小学校



中学校

### 中学校への段差をなだらかにする手立て



### 出前授業

- 中学校教師が小学校へ出向き授業を行う。
- 中学校で新しく加わる教科のイメージがもてるようにする。

### 入学説明会

- 中学校教師、生徒が小学校を訪問し説明をする。
  - \* イメージをもちやすいよう、写真等を利用し資料を工夫する。
  - \* 小学校第6学年児童へ「中学校に対する不安」の聞き取り調査を行う。
  - \* あらかじめ質問を考えてもらい、訪問時に回答する。
- 中学校進学予定の小学校第6学年児童とその保護者が中学校へ行き説明を受ける。
  - \* 先輩となる中学生との交流会等を行い、小学校第6学年児童の不安を和らげる。
  - \* 中学校での取り組みを保護者へ伝え、教育活動への協力を依頼する。
  - \* オープンスクールと兼ねて行う。

### オープンスクール

- 休日を含めた一週間や、平日の5日間等長い期間を設定して、より多くの参加が得られるよう工夫をする。
- 小学校第6学年児童とその保護者、地域住民、全小学生又は学校関係諸機関など、対象を明確にする。
- 学校公開、授業参観、体験入部、教育講演会など、内容を工夫する。

部活動は何に入ろうかな？

英語の授業楽しそう。

中学生になった気分が味わえた。



中学校の先生も優しそう。

### 学校の実態に合わせた工夫

- 既に行っているものを組み合わせたり、構成的グループエンカウンター等を取り入れたりアレンジして実施する。
- 生徒会執行部の取り組みとして行うなど、中学生と小学生の交流を設定する。

# 不登校を未然に防ぐための支援の具体例

## 中学校生活についてのガイダンス

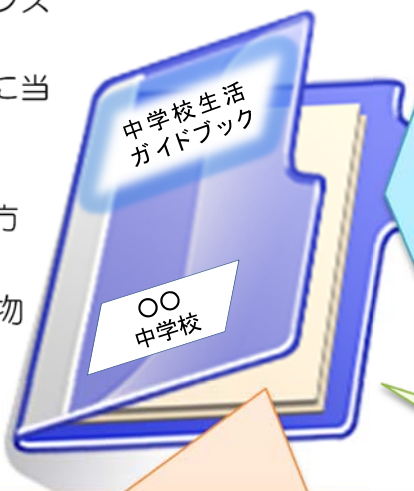
中学校入学当初では、リアリティショックを軽減し、個々の生徒のレジリエンス（折れない心、困難から立ち上がる力）を高めるためのガイダンスが必要

### 《中学校生活ガイドブックを作る》

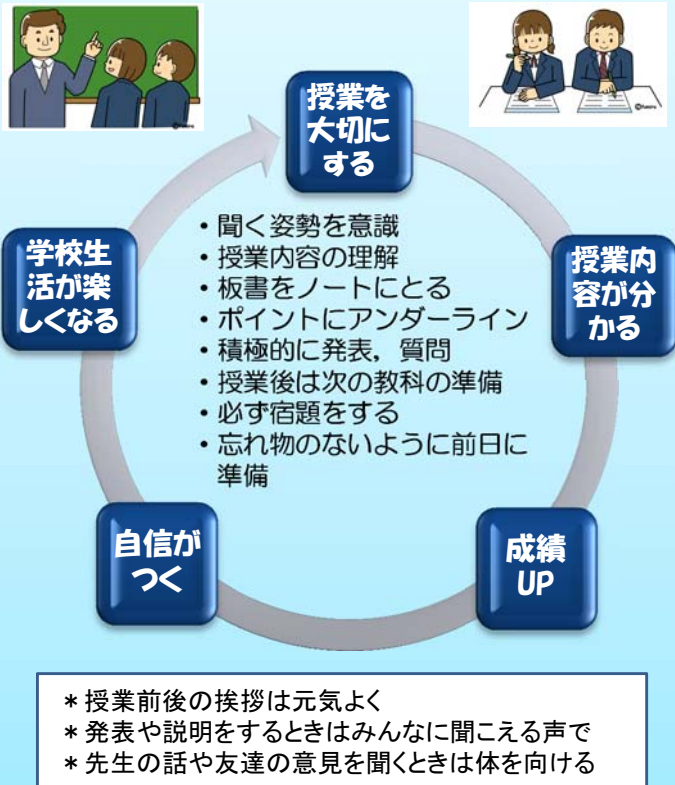
生徒と保護者が新たに始まる中学校生活について理解を深めやすいように工夫が必要であり、生徒の学習に対する不安を軽減できる内容にすることが大切である。

### 《学習に関する項目の例》

- 1 授業について
- 2 家庭学習について
- 3 テスト勉強について
- 4 各教科のガイダンス
  - 学習の目標
  - 学習を進めるに当たっての注意
  - 授業の受け方
  - 家庭学習の仕方
  - 評価の見方
  - 学習に必要な物



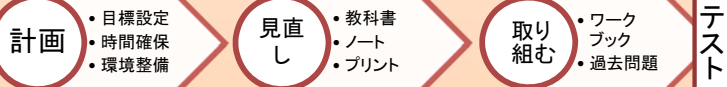
### 授業について



プログラム

### テスト勉強はこうする！

#### テスト勉強のステップ



#### テストに出題される内容

### 授業で習ったこと！

- ・先生が繰り返したところ
- ・色を変えたり、線を引いたり囲んだりしたところ
- ・テスト前の授業で先生がもう一度説明したところ

### 小テストや宿題プリント！

- ・きちんとファイルして見直すこと
- ・一度間違えたところの解き方を確認しておくこと

### 家庭学習のポイント！

#### どのように時間を生み出すか！

- \* 何かをガマンする！（TVやゲームなど）
- \* 家族に声をかけてもらう
- \* 勉強の時間をあらかじめ設定しておく

#### 机に向かったらすぐ勉強に取りかかる！

- \* 机の周りに学習に不要な物を置かない
- \* まずは、教科書やノートを机の上に出す
- \* 時々気分転換すると効果的

#### 宿題を復習の時間へと広げる！

- \* 宿題をした後に、今日習ったことを思い出す
- \* 教科書とノートを確認する

### 例えばこんな家庭学習メニュー

- 音読（教科書を声に出して読む）
- 本文の確かめ（興味があったところ、大切だと思ったところをノートに写す）
- 漢字、計算、単語練習
- 間違い直し（テストやプリントで間違えた問題を、教科書を見ながらもう一度解いてみる）

不登校を未然に防ぐための支援の具体例

# 不登校を未然に防ぐための支援の具体例

## 保護者が子どもを支えるための取り組み

子どものサポートが行いやすいよう具体的な情報を提供することが必要

### 一番の相談相手は家族

プログラム

#### 家庭

子どもは学習面の不安が大きいことを伝え、家庭学習の定着を図るための取り組みに協力をお願いします。

子どもが不安や悩みがあるときは、保護者を頼りにしていることを伝え、その支えになるための、聞く姿勢の大切さについて伝える。

保護者が子育てに悩んだときは、担任だけではなく、養護教諭やスクールカウンセラーにも相談できることを伝える。

中学校へ入学直後の子どもは、忙しさの中で戸惑いを感じており、生活習慣（食事、睡眠等）を整えることや、保護者がゆったりとした気持ちで見守ることの必要性を伝える。

パソコンやスマートフォン等のメディア利用について、家庭のルールを決めるようお願いをする。

保護者会、学級懇談会、PTA活動などの学校行事への、積極的な参加をお願いします。

連携から得た情報を家庭教育へ生かす

#### 学校

校内研究授業を行い、学力の定着を図るための授業改善や工夫を重ねる。

授業参観、学校だより、学年だより、学級だより、学校Webページ等で学校の様々な情報を家庭や地域に発信する。

学校の実態に合わせ、家庭と学校で共通して取り組みたい内容の教育講演会などを開催する。

学校での児童生徒の様子を保護者や地域の人々が見たり、一緒に活動へ参加したりすることで、直接関わる場ができ、日常連携へとつながるようにする。

学校での児童生徒の様子を伝えたり、家庭での様子についての情報交換ができるよう、家庭訪問や教育相談を活用して直接会う機会を設ける。

学校行事やPTA活動などで、保護者同士、保護者と教職員とが交流できる機会を設け、良好な人間関係づくりを行う。

連携から得た情報を教育活動へ生かす

学力の定着

子どもの理解

生活習慣の定着

良好な人間関係



関係機関と連携することで、家庭内の抱えている問題を的確に把握し、児童生徒にとって一番よい方法を見付けるため、学校ができることは何か、どの機関がどのように関わっていくことができるかを具体的に考える。

(例) 教育支援センター、児童相談所、医療機関、警察、スクールソーシャルワーカー、民生委員 等

不登校を未然に防ぐための支援の具体例

# ワークシート集

- 児童生徒個人へ配付するワークシートはA4サイズでそのままコピーして使用してください。
- 「すごろく」(シート2, 11)は必要に応じて、拡大コピーをしてください。
- 「私たちの行動宣言」(シート10)は2枚分を掲載しています。切り取り線で切り離して使用してください。
- 「中学校生活を語ろう メッセージカード」(シート13)は1年生用と上級生用を1ページにまとめて掲載しています。切り離してそれぞれに配付してください。

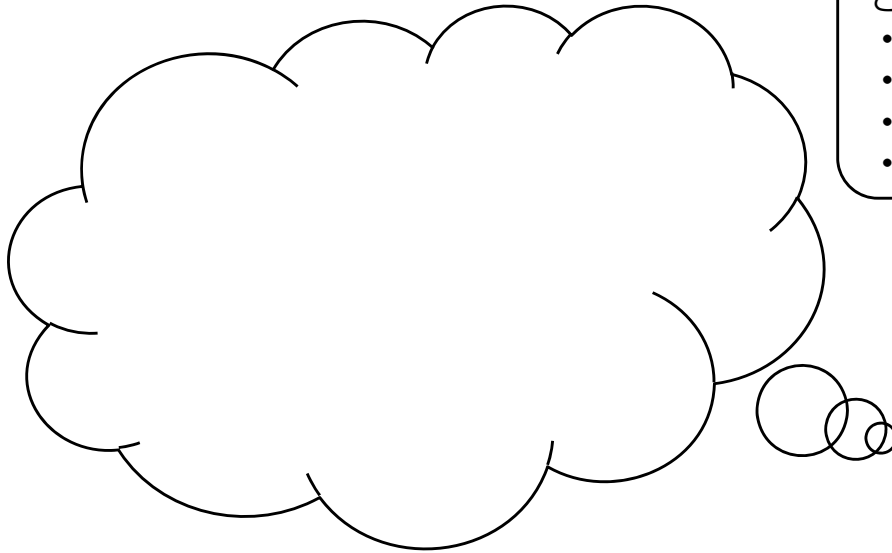
# 「友達との良好な関係づくりー上手な聞き方ー」

## ワークシート

6年 組 番 名前

1 聞く人が次のような態度で聞くと、話す人はどのように感じるだろう？

### 《聞き方1》

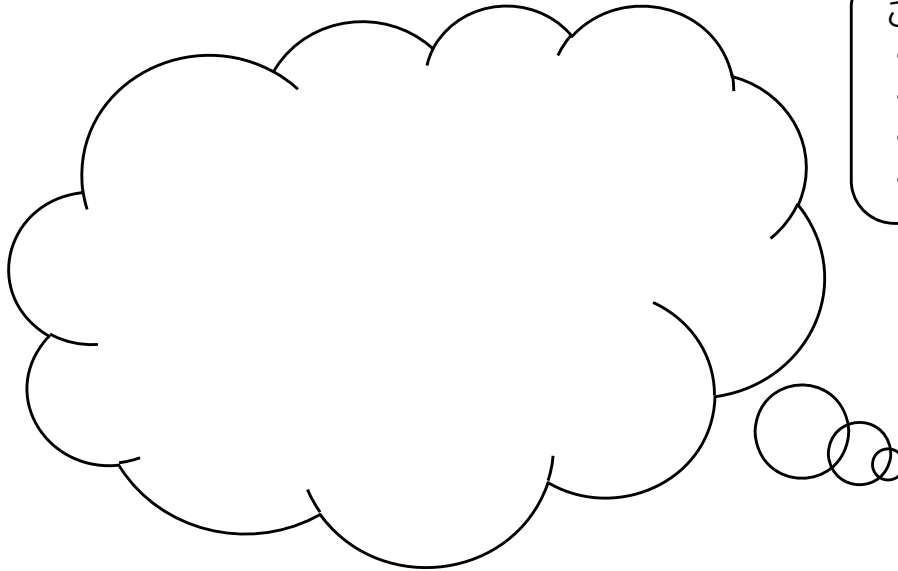


こんな態度で聞いているよ

- 相手の顔を見ないで
- つまらなそうに
- うわの空で
- 他のことをしながら



### 《聞き方2》



こんな態度で聞いているよ

- 相手の顔を見て
- 関心をもって
- 内容をイメージしながら
- 質問をしながら



2 話を聞く時のポイントをまとめよう。






①

②

③

④

# すごろく 《中学校生活への期待と不安を語ろう》

中学校で困った ときには誰に相 談する？	中学校の制服に 対するイメージ は？		
	2マス進む ただし昨晚10時 までにねた人だけ	中学校生活をイメージ すると何色？ (その理由は?)	ここに止まった ラクーン!
中学校の先ぱいにつ いて思うことは？	<div style="text-align: center;">  </div>		
	<b>【ルール】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● じゃんけんで一番勝ちの人から右回りにさいころをふる</li> <li>● どうしても言えない場合はパスしてよい</li> <li>● メンバーの質問や発言をうなずきながら聞く</li> <li>● ちゃかしたり冷やかしたりしない</li> </ul>	中学校の勉強で がんばろうと思 う教科は何？	連帯感のマス 全員1マスもどる
中学校生活で楽し みにしていること は何？ (理由は?)	1回休み	部活動は何に 入りたい？	
		中学校生活で不 安に思うことっ て何？ (理由は?)	中学校で必要な物 は何を準備した？

# 「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(1)ー」 ワークシート

6年 組 番 名前

1 次の場面①～⑥であなたはどのように言って気持ちを伝えますか？


**①** 友達をほめたり感謝したりする場面  
自分一人で係の仕事をしているとき

手伝ってあげるよ。



**②** 友達に助けを求める場面  
自分一人ではちょっと大変な仕事を、任せられているとき

今何してるの？




**③** 友達に自分の限界を伝える場面  
自分がよく分からないところを、友達に聞きたいとき

なあに？



**④** いやなことをされたときにそれを友達に伝える場面  
自分の消しゴムを友達が勝手に使っているとき




**⑤** 友達とちがう意見を言う場面  
友達が提案した遊びとはちがう遊びがしたいと言うとき

みんなをさそっておにごっこしよう。



**⑥** 友達のたのみやさそいを断る場面  
友達がなわとびにさそってくれたが、それを断るとき

なわとびしない？



2 あなたが上手に自分の気持ちを伝えられている場面はどれですか？右下の四角に○印を付けましょう。(いくつ選んでもよい)

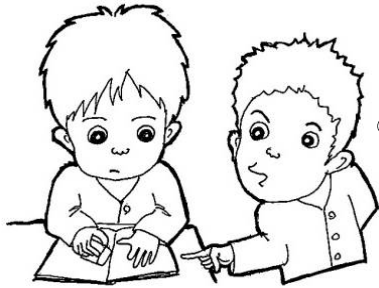


# 「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(2)ー」

## ④ いやなことをされたときにそれを友達に伝える場面 ワークシート

6年 組 番 名前

1 あなたの消しゴムを友達が勝手に使っています。返してほしいと思っています。



勝手に使ってる……。いやな感じだな。  
ぼくも使いたいんだけどな、「返して」とい  
きなり言うのも感じ悪いか？  
どんなふうに言おうかな？

？

(1) どんな伝え方がよいでしょう。

ア 「それはぼくの消しゴムだぞ。何で勝手に使ってるんだよ。返せよ！」

イ 「あの…。消しゴムが…。ああ。いや、何でもないよ…。」

ウ 「その消しゴム、ぼくのなんだけど、返してもらっていい？」

(2) なぜ、その伝え方がよいか、グループで話し合みましょう。

2 上手な伝え方のポイントをまとめましょう。

3 次の場面で練習してみましょう。

A君は、仲良しのB君と二人にいる時によくニックネームで呼ばれます。A君はその呼ばれ方がいやだと思っています。その気持ちをB君にどのように伝えますか？

# 「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(2)ー」

## ⑤ 友達とちがう意見を言う場面 ワークシート

6年 組 番 名前

1 友達といっしょに遊ぼうと思います。しかし、何をして遊ぶかで意見がちがいました。



(1) どんな言い方がよいでしょう。

ア 「あっ、ううん。そっそうだね…。」

イ 「おにごっこもおもしろいけど、今日は、ドッジボールにしない？ドッジボールもいいかなと思うんだ。どうかなあ？」

ウ 「ええ。また、おにごっこ？いつも自分のしたい遊びばかり言って、勝手だよ。もういっしょに遊ぶのやめた！」

(2) なぜ、その言い方がよいか、グループで話し合ひましょう。

2 友達とちがう意見を言う場面で、自分の気持ちを上手に伝えるときのポイントをまとめましょう。

3 次の場面で練習してみましょう。

全校集会でクラスで出し物をするようになりました。まず、グループで案を出すようになりました。Aさんは「劇がしたい」と言いました。あなたは合奏がしたいと思っています。どのように自分の意見を言いますか？

# 「友達との良好な関係づくりー自分の気持ちを伝えよう(2)ー」

## ⑥ 友達のたのみやさそいを断る場面 ワークシート

6年 組 番 名前

1 友達が遊びにさそってくれました。あなたは読書がしたいので断ろうと思います。どのように断るか考えて吹き出しに書きましょう。



(1) どんな断り方がよいでしょう。

- ア 「さそってくれてありがとう。ごめんね、今日は読書がしたいんだ。また今度なわとびする時さそってね。」
- イ 「今日は読書したいし。なわとびなんかしんどいから私きらい！」
- ウ 「あっ、うっうん。そっそうだね…。」

(2) なぜ、その断り方がよいか、グループで話し合ひましょう。

2 友達のさそいを断るときのポイントをまとめましょう。

3 次の場面で練習してみましょう。

Aさんは今週の給食当番です。あなたは給食当番ではありませんが、Aさんから「給食の食器を取りに行ってくる」と言われました。あなたは別の係の仕事があります。どのように断りますか？

# 「学級の良好な人間関係づくりーグループ活動を楽しくー」

## ワークシート

1年 組 番 氏名

1 グループ活動をするとき、①から④のような態度をとる人がいると、周りの人はどんな気持ちになるでしょうか。また、①から④のような態度はグループにどんな影響を与えますか。



① 二人でいつもひそひそ話をする。  
ねえねえ。

② 他の人に返事をしない。  
私たちは同じでなきゃ嫌だ。

③ 二人が同じ仕事（役割）でないと嫌がる。  
だりいよなあ。

④ 話し合いに参加しない。  
この係は誰がする？

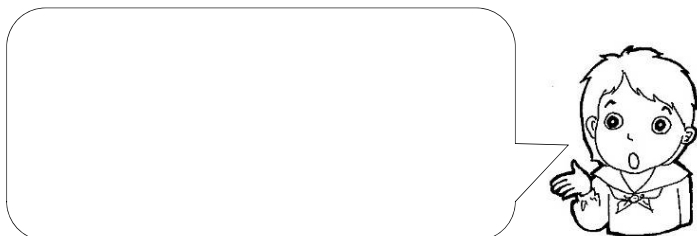
気持ち

影響

2 1のような態度の他に、グループ活動をするときに周りの人に嫌だと感じさせるのはどのような態度でしょうか。

3 もし、自分のグループに周りの人が嫌だと感じる態度をとる人がいたら、あなたはどのように声をかけますか。

4 もし、自分が周りの人に嫌だと感じさせる態度をとってしまい、自分のグループの人から注意をされたら、どう答えますか。



5 グループ活動を協力的に行うために、あなたはどのように行動すべきだと思いますか。

# 「学級の良い人間関係づくりーグループ活動を楽しくー」

## ワークシート

1年 組 番 氏名

1 グループ活動をするとき、①から③のような態度をとる人がいると、周りの人はどんな気持ちになるでしょうか。また、①から③のような態度はグループにどんな影響を与えと思いますか。



① やる気のない返事をする。

気持ち



② 他の人のやる気をそぐ言動をする。

影響

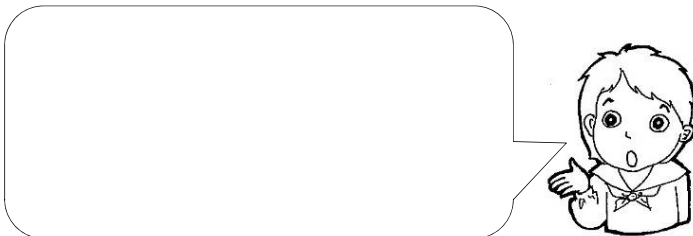


③ 自分勝手なことを言う。

2 1のような態度の他に、グループ活動をするときに周りの人に嫌だと感じさせるのはどのような態度でしょうか。

3 もし、自分のグループに周りの人が嫌だと感じる態度をとる人がいたら、あなたはどのように声をかけますか。

4 もし、自分が周りの人に嫌だと感じさせる態度をとってしまい、自分のグループの人から注意をされたら、どう答えますか。



5 グループ活動を協力的に行うために、あなたはどのように行動すべきだと思いますか。

- 1 悪口を言いふらしたり、無視して仲間外れにしたりすることもいじめです。他に、どんなことがいじめになると思いますか。

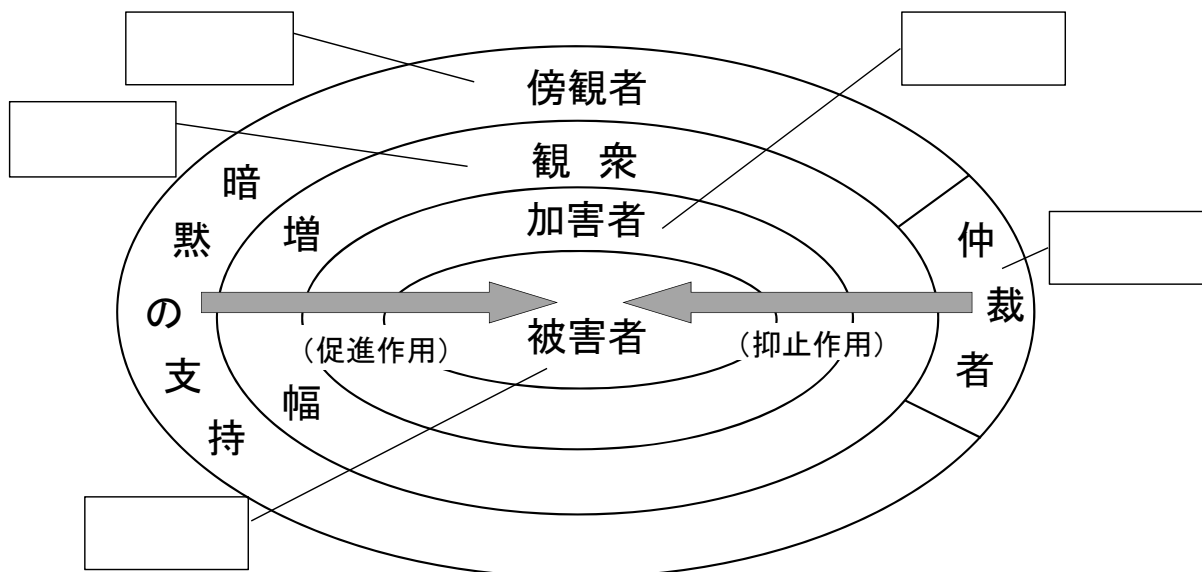
じゃれ合い？ いじめ？



- 2 次の文章を読んでいじめについて考えましょう。

Aさんは、中学校に入学して間もなく、同じ学級で席が近くのBさん、Cさんと仲良くなり、一緒に行動するようになりました。しかし、BさんやCさんとは別の部活動に入部したり、学級でも新しい交友関係が広がったりするにつれ、AさんはBさんやCさんの誘いを断ることが多くなりました。BさんからAさんへのメールは、次第に「うざい」という内容に変化していきました。Cさんも、Bさんが嫌がらせのメールをしていることを知り、「ちょっと、おもしろそうじゃない。私もAさんのことはなんだか嫌だ。もっとやっちゃえ」と言い、他の人にもそのことを伝えました。さらに、Bさんは学級の他の友達に「Aさんがあなたの悪口をメールで送ってきたよ」とうそを伝えたため、Aさんは同じ学級の友達からも孤立していきました。同じ学級のDさんは仲間外れにされているAさんとは仲が良かったのでかわいそうに思いましたが、何もできませんでした。同じ学級のEさんは担任の先生に相談しました。担任の先生がAさんに話を聞いたところ、Aさんは今の状況を話し始めました。

(1) 次の図はいじめの構造を表しています。AからEの登場人物はそれぞれの立場の人だと思いますか。図にA～Eを書き込みましょう。



引用「いじめ集団の4層構造モデル」(1985) 森田洋司

傍観者：ただ見ているだけの人，見て見ない振りをする人  
 観衆：はやし立てたり，面白がったりして見ている人  
 仲裁者：いじめを止めさせようとする人

- (2) AからEの登場人物はどのような気持ちだと思いますか。下の表に書きましょう。
- (3) あなたはそれぞれの登場人物にどんなことを伝えたいですか。下の表に書きましょう。

	(2) 登場人物の気持ち	(3) 登場人物に伝えたいこと
Aさん	(記入例) BさんCさんとは仲が良かったのに辛い。 みんな私から離れていく。 私は悪口のメールは送ってないのに。	(記入例) 辛いね。 一人で苦しまないで先生や家の人に相談しようよ。
Bさん		
Cさん		
Dさん		
Eさん		

# 私たちの行動宣言

**私たちは、いじめが起きない安心できる学級にするために、次のことを宣言します！**

**1年 組 班 メンバー**

----- 切り取り -----

# 私たちの行動宣言

**私たちは、いじめが起きない安心できる学級にするために、次のことを宣言します！**

**1年 組 班 メンバー**



# すごろく「中学校生活を語ろう」

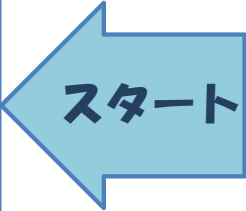
<p>◎中学校で楽しみな事は何？(理由は?)</p> <p>◎中学校で困っているのはどんなこと? (理由は何?)</p> <p>◎中学校で困ったとき相談する相手は誰?</p>	<p>●今ちょっと困っているのは</p> <p>○1年生の時に大変だったことは?</p> <p>○入学して驚いたことは?</p> <p>○1年生にエール(頑張ってください!)を送る</p>	
<p>◎ここに止まったらクオーラ!</p>	<p>◎興味がある部、または入部しての感想は?</p> <p>○部活動の紹介をする(所属してなくても)</p>	<p>●一緒にすごろくをした上級生に、感謝の気持ちを伝える</p> <p>○1年生にエール(頑張ってください!)を送る</p>
<p>◎連帯感を強めるマス(全員1マスもどる)</p>	<p>◎あなたのストレス解消法は?</p>	<p>◎連帯感を強めるマス(全員4マスもどる)</p>
<p>◎通学時間と通学方法と朝起きる時刻は?</p>	<p>◎2マス進む(ただし、昨夜10時までに寝た人だけ)</p>	<p>◎中学校の授業で、準備(予習など)が大変な教科は?上級生はその乗り越え方も言う</p>
<p>◎この中学校に入学して、これはいいなと思ったことは?</p> <p>○この中学校の「素晴らしい!」と思うところは?</p>	<p>●この中学校に入部して、これはいいなと思ったことは?</p> <p>○この中学校の「素晴らしい!」と思うところは?</p>	
<p>●この中学校に入部して、これはいいなと思ったことは?</p> <p>○この中学校の「素晴らしい!」と思うところは?</p>	<p>●この中学校に入部して、これはいいなと思ったことは?</p> <p>○この中学校の「素晴らしい!」と思うところは?</p>	

ルールの確認をしてから始めよう!

1年生・・・●

上級生・・・○

共通・・・◎



## ルール

- ・じゃんけんで一番勝ちの人から右回りにさいころを振る。
- ・どうしても言えない場合はパスしてもよい。
- ・メンバーの質問や発言をうなずきながら最後まで聞く。ちゃかしたり冷やかしたりしない。

# さいころトークング

## 「中学校生活を語ろう」話題シート

さいころの目	話 題
1	【1年生】 この中学校に入学していいなあと思ったこと 【上級生】 この中学校の素晴らしいところ
2	【1年生】 興味がある部, または入部しての感想 【上級生】 部活動の紹介 (所属していない人は趣味の紹介)
3	中学校の授業で, 準備 (予習など) が大変だと感じる教科 (上級生はその乗り越え方なども話す)
4	【1年生】 今, ちょっと困っていること 【上級生】 今まで困ったときどう対応してきたか
5	【1年生】 テストに関することを敬語で上級生に質問する 【上級生】 テスト前の勉強時間
6	【1年生】 最近よく相談している相手 【上級生】 私のストレス解消法

### 最後に

【1年生】 一緒にさいころトークングをした上級生に, 感謝の気持ちを伝えよう!

【上級生】 1年生にエール (頑張っ!) を送ろう!

### ルール

- ・じゃんけんをして最初に話す人を決め, その人がさいころを振る。後は右回りに時間まで続ける。
- ・さいころの目の「話題」でグループ全員が順に話す。同じ数が出た時はもう一度振る。
- ・どうしても言えない場合はパスしてもよい。
- ・メンバーの質問や発言をうなずきながら最後まで聞く。ちゃかしたり冷やかしたりしない。

## 「中学校生活を語ろう」メッセージカード（1年生記入用）

一緒に活動した上級生へのメッセージ

（ ）グループ  
グループメンバーの名前

----- 切り取り -----

## 「中学校生活を語ろう」メッセージカード（上級生記入用）

一緒に活動した1年生へのメッセージ

（ ）グループ  
グループメンバーの名前

## 参考・引用文献

- 森田洋司（1985）『いじめ集団の4層構造モデル』
- 佐藤正二，相川充（2005）『実践！ソーシャルスキル教育』図書文化
- 河村茂雄，品田笑子，藤村一夫（2007）『いま子どもたちに育てたい 学級ソーシャルスキルCSS小学校高学年』図書文化
- 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』
- 岡山県教育庁人権教育課（2008）『人権教育指導資料Ⅴ人権学習ワークシート（上）』
- 栗原慎二，井上弥（2011）『アセス（学級全体と児童生徒個人のアセスメントソフト）の使い方・活かし方』ほんの森出版
- 小泉令三，山田洋平（2011）『社会性と情動の学習（SEL－8S）小学校編』ミネルヴァ書房
- 小泉令三，山田洋平（2011）『社会性と情動の学習（SEL－8S）中学校編』ミネルヴァ書房
- 岡山県総合教育センター長期研修員 木村好香（2011）『自分の思いを主張できる児童を育成するための手だてに関する一考察－小学校高学年児童の主張性の特徴に焦点を当てて－』
- 岡山県総合教育センター研究紀要第6号（2012）『不登校の未然防止に関する調査研究－中学校入学前後の予期不安，リアリティショックに焦点を当てて－』
- Webページ 文部科学省：いじめの定義  
([http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2013/10/18/1304156\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/10/18/1304156_01.pdf))
- 岡山県教育庁義務教育課（2013）『学習規律実践事例集』
- 文部科学省（2013）『平成24年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」』

\*本文掲載イラストの一部は、イラストレーターわたなべふみのものを使用しています。（<http://www.fumira.jp/index.htm>）

平成23～25年度岡山県総合教育センター所員研究（共同研究；生徒指導）  
「不登校の未然防止に関する調査研究  
—中学校入学前後の予期不安，リアリティショックに焦点を当てて—」  
研究委員会

指導助言者

新井 肇 兵庫教育大学大学院教授

協力校

津山市立林田小学校，津山市立鶴山小学校，津山市立高倉小学校  
笠岡市立笠岡小学校，笠岡市立今井小学校，笠岡市立大井小学校  
真庭市立勝山小学校，真庭市立月田小学校，真庭市立富原小学校  
津山市立中道中学校，笠岡市立笠岡西中学校，真庭市立勝山中中学校

協力委員

石田 玲子 吉備中央町立上竹荘小学校教頭  
（現 吉備中央町立大和小学校教頭）  
美若 知美 津山市立西小学校指導教諭  
（現 津山市立北小学校指導教諭）  
田中 義昭 笠岡市立大井小学校教諭  
植田 隆之 真庭市立勝山小学校教諭  
橋本 淑子 津山市立津山西中学校養護教諭  
佐藤 哲治 笠岡市立笠岡西中学校教諭  
（現 笠岡市立北木中学校教諭）  
山乗富美子 真庭市立勝山中中学校養護教諭  
（現 真庭市立二川小学校養護教諭）

研究委員

石井 孝典 岡山県総合教育センター生徒指導部長（平成25年度）  
野崎 誠二 岡山県総合教育センター生徒指導部長（平成24年度）  
（現 高梁市教育委員会学校教育課課長補佐）  
常本 直史 岡山県総合教育センター生徒指導部長（平成23年度）  
（現 岡山県立真庭高等学校長）  
塚崎智代美 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事  
田坂 紀子 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事  
（現 岡山県教育庁高校教育課指導主事（主幹））  
高橋 典久 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事  
（現 岡山県教育庁義務教育課生徒指導推進室指導主事（主幹））  
中川 泰輔 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事  
岡本 邦尚 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事  
赤木陽一郎 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事（主幹）  
松末 昌樹 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事  
福田 誠 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事



平成26年2月発行

中学校生活をスムーズに始めるためのプログラム

編集兼発行所 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL (0866)56-9101 FAX (0866)56-9121

URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

E-MAIL [kyoikuse@pref.okayama.lg.jp](mailto:kyoikuse@pref.okayama.lg.jp)

お問い合わせ 生徒指導部 TEL (0866) 56-9105  
Copyright © 2014 Okayama Prefectural Education Center